



オメガケンタウリ (ω Centauri)

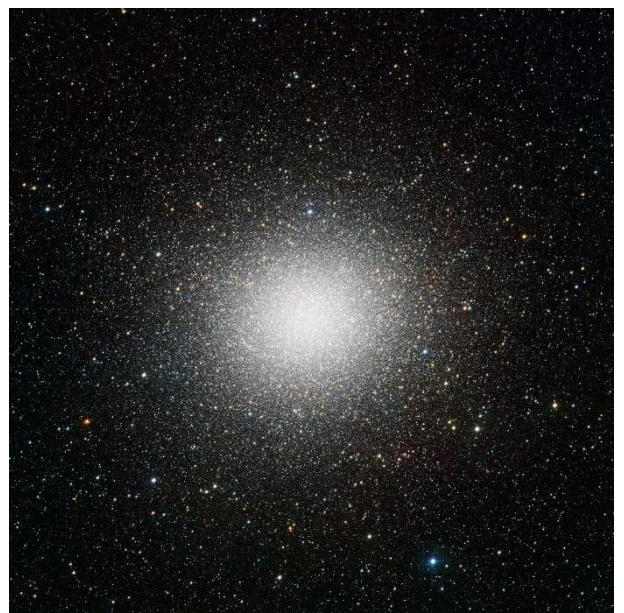
オメガケンタウリ

ケンタウルス座は1等星を2つ持つ南半球を代表する大きな星座です。日本やヨーロッパ等の北半球の国からは全身を見ることはできませんが、天文学的に重要な天体が多くあるのですが、有名なのは、童話に出てくる「ケンタウルの祭り」かも知れません。一方、天文ファンにとっての魅力は、2つの1等星が南十字星の隣できれいに並んでいるところでしょう。ケンタウルスとは神話に登場する半人半馬族の名前です。

ケンタウルス座の中でも北の方、つまり日本からも見えるところにある5等級のω星は最近脚光を浴びている天体です。あたかも恒星のような名前が付いていますが、実は恒星が100万個以上も集まった球状星団です。球状星団は、私たちの銀河の外側を包囲するように150個も分布しています。昔、小さな銀河の中心だったところが外側の星を剥ぎ取られて残った残骸ではないかという説がありますが、現時点では真偽は不明です。

近年、この星団の中心には、太陽の5万倍もの重さのブラックホールがあるのではないかとされています。これまで、銀河系内にある太陽の数倍程度の重さのブラックホールと、銀河中心にある太陽の数十億倍も重いブラックホールの2種に分類されてきましたが、その中間の重さのブラックホールは見つかっていませんでした。

目立つ天体なのですが、南天低くにしか見えないので、プラネタリウムではあまり取り上げられてきませんでした。



ケンタウルス座ω星団の姿。省略してω星団と呼ばれることもある巨大な球状星団。

Credit:ESO/INAF-VST/OmegaCAM.

Acknowledgement: A. Grado, L. Limatola/INAF-Capodimonte Observatory